

# 「～するとすぐに」の意味を持つ接続詞の発達

The Development of Conjunctive Word-Groups<sup>1)</sup>  
Which Express Two Events or Actions that Take Place one after the other

原 口 行 雄

## 要 約

拙論は16世紀前半から19世紀前半までの『～するとすぐに』の意味を表す「時の副詞節」を導く接続詞の発達と衰退について論じたものである。資料としてフィクションならびにノンフィクションの散文作品を用いた。

接続詞は形態を中心に4つのグループに分類した。即ち、第1グループ (*as soon as*, *so soon as*, *as soon as ever*, *anon as*, *as fast as*, *soon as* の6種類)；第2グループ (*no sooner ~ but*, *no sooner ~ than*, *no sooner ~ when*, *no sooner ~ but that*, *scarce ~ before*, *scarce ~ but*, *scarce ~ but that*, *scarce ~ ere*, *scarce ~ that*, *scarce ~ then*, *scarce ~ when*, *scarcely ~ before*, *scarcely ~ ere*, *scarcely ~ than*, *scarcely ~ when*, *hardly ~ before*, *hardly ~ e're*, *hardly ~ when*, *barely ~ when* の19種類)；第3グループ (*the moment*, *the instant*, *the minute*, *the moment that*, *the instant that* の5種類)；第4グループ (*directly* と *immediately* の2種類)。

第1グループの場合、*as soon as* と *so soon as* の2種類の出現回数が他を大きく上回っている。だが、18世紀後半に *so soon as* は出現回数を大幅に減らし、19世紀前半に完全に消失する。*as soon as* は優勢を保持したまま現在でも唯一残存し続けている。第2グループでは、*no sooner ~ but* と *no sooner ~ than* の2種類はその出現回数が他の17種類よりも比較的多い。それでも *no sooner ~ but* は18世紀後半に出現回数が大幅に減少し、19世紀前半に完全に姿を消し、*no sooner ~ than* の優勢が決定する。残りの接続詞はその出現が概ね一定しておらず、19世紀前半には *scarcely ~ before*, *scarcely ~ when*, *hardly ~ before*, *hardly ~ when* の4種類がその出現回数から見て残存していく可能性が窺われる。第3グループの場合、18世紀前半から19世紀前半までの3

1) 調査対象の時の副詞節を導く接続詞を英語での表記を conjunctive word-groups としたのは、Poutsma の表記方法を援用したものである。See Poutsma (1929: 665): *Than* appears at the head of a clause thought of in a relation of time is expressed by the word-group *no sooner ...than*, which differs from other conjunctive word-groups of time such as *as soon as*, etc., only in so far as its two members are divided by other elements of the sentence. In early Modern English *but* was often used instead of *than*.

期を通じて、*the moment* は出現回数が他の接続詞を大幅に上回り優勢を保持しており、また *the instant* や *the minute* と共に現代英語に残存している。第4グループの *directly* と *immediately* も現代英語に残存している。先ず、*directly* はイギリス英語でのみ使用されるもので、19世紀前半に登場した際、主に Dickens、Thackeray、M. Arnold が用いている。一方、*immediately* は *Robinson Crusoe* (1719) でのみ使用され稀有な存在であった。

第2グループの *no sooner*、*scarce*、*scarcely*、*hardly*、*barely* の否定の副詞が文や節の先頭に来ると通例主部と動詞句の間で倒置構造が生まれる。兎に角、いずれかの否定の副詞が先頭に来て、倒置構造を形成するものは多いとも少ないとも云えないほどであった。それでも *no sooner* ～ *than* に限り、18世紀前半までは倒置構造を生じる回数は少数であったが、18世紀後半から19世紀前半までその回数が増加している。

すべての接続詞が2つの節、即ち従属節と主節を備えている。この2種類の節に現れる動詞の時制を調べた結果、「単純過去時制+単純過去時制」の組合せの総数が第1位で、「過去完了時制+単純過去時制」の組合せの総数が第2位であった。

## 序

この論文は16世紀初頭から19世紀前半までの初期近代英語期と後期近代英語期における「～するとすぐに」の意味を持つ接続詞の発達を扱ったものである。資料として用いたのはイギリス英語の散文作品である。

次の四項目について論じる。

- (1) 4グループから成る接続詞と各グループの特徴
- (2) 主節と従属節における各動詞の時制の組合せ
- (3) 初期近代英語期から後期近代英語期までの各接続詞の衰退と発達
- (4) *No sooner*、*Scarce*、*Scarcely*、*Hardly*、*Barely* で始まる接続詞が倒置構造を取る実態

16世紀初頭から19世紀前半までの3世紀半(350年間)に亘る接続詞の発達と衰退の歴史を見ていくにあたり、半世紀(50年間)毎に区切って検討していく。従って、7つの時代区分を設定し、半世紀毎に4つの各グループのどの接続詞が登場し、発展、衰退(消失を含む)していったのかを表で示す。

- I. 16世紀前半(1501年～1550年)
- II. 16世紀後半(1551年～1600年)

Ⅲ. 17世紀前半 (1601年～1650年)

Ⅳ. 17世紀後半 (1651年～1700年)

Ⅴ. 18世紀前半 (1701年～1750年)

Ⅵ. 18世紀後半 (1751年～1800年)

Ⅶ. 19世紀前半 (1801年～1850年)

用例を提示する際、テキストからの場合該当ページを明記する。一方、電子テキストからの場合には該当ページは明記しない。

今回、「時の副詞節を導く接続詞の発達」を再考する際に、以前の同じ内容の拙論で資料として調査した全てのテキスト（電子テキストを含む）から収集した全用例を見直し、様々な観点から分類し直したり、再検討を行ない、必要な修正を施した。

## 第1章 各グループに属する接続詞とグループ別特徴

接続詞をその形態面の特徴に基づいて以下の4グループに分類した。

### 第1グループ 6種類

*as soon as, so soon as, as soon as ever, anon as, as fast as, soon as*

### 第2グループ 19種類

*no sooner ~ but, no sooner ~ than, no sooner ~ when, no sooner ~ but that, scarce ~ before, scarce ~ but, scarce ~ but that, scarce ~ ere, scarce ~ that, scarce ~ then, scarce ~ when, scarcely ~ before, scarcely ~ ere, scarcely ~ than, scarcely ~ when, hardly ~ before, hardly ~ e're, hardly ~ when, barely ~ when*

### 第3グループ 5種類

*the instant, the minute, the moment, the instant that, the moment that*

### 第4グループ 2種類

*directly, immediately*

上に挙げたように、第1グループに属する接続詞は6種類、第2グループに属する接続詞は19種類、第3グループに属する接続詞は5種類、第4グループに属する接続詞は2種類あり、全部で32種類ある。32種類の内、現代英語まで存続できたのは、第1グループに属する接続詞では *as soon as* 1種類だけであり、第2グループに属する接続詞では *no sooner ~ than*、*scarcely ~ before*、*scarcely ~ when*、*hardly ~ before*、*hardly ~ when* と *barely ~ when* の6種類

であり、第3グループに属する接続詞では *the instant*、*the minute*、*the moment* の3種類であり、第4グループに属する接続詞では *directly*、*immediately* の2種類共に生き残っている。つまり全部で12種類の接続詞が残存している。

### 第1節 第1グループに属する接続詞

第1グループに属する接続詞の内、*as soon as*、*so soon as* の2種類は特に使用頻度が高く、一般的なものである。それで各時代区分に両方の接続詞が現れる時、両者は競合関係にあると考えられている。残りの *as soon as ever*、*anon as*、*as fast as*、*soon as* の4種類は前述の2種類と意味及び用法の点では類似のもので、*as soon as ever* は *as soon as* の強意形だと見なされている。

次に、16世紀前半から19世紀前半までの各半世紀におけるこれらの接続詞のそれぞれの出現実態を披露しておく。各接続詞がいくつのテキストに全部で何回現れるのか、それは以下の通りである。

表1 第1グループの接続詞の半世紀毎の出現回数と出現したテキストの数

16世紀前半 1501 — 1550	<i>as soon as</i>	115回	7テキスト
	<i>as soon as ever</i>	1回	1テキスト
	<i>anon as</i>	3回	2テキスト
16世紀後半 1551 — 1600	<i>as soon as</i>	106回	14テキスト
	<i>as soon as ever</i>	4回	3テキスト
	<i>as fast as</i>	1回	1テキスト
	<i>so soon as</i>	31回	7テキスト
17世紀前半 1601 — 1650	<i>as soon as</i>	63回	4テキスト
	<i>as soon as ever</i>	1回	1テキスト
	<i>so soon as</i>	3回	2テキスト
17世紀後半 1651 — 1700	<i>as soon as</i>	99回	11テキスト
	<i>as soon as ever</i>	4回	3テキスト
	<i>as fast as</i>	1回	1テキスト
	<i>so soon as</i>	27回	5テキスト
18世紀前半 1701 — 1750	<i>as soon as</i>	320回	11テキスト
	<i>as soon as ever</i>	4回	1テキスト
	<i>as fast as</i>	9回	6テキスト
18世紀後半 1751 — 1800	<i>as soon as</i>	204回	17テキスト
	<i>as soon as ever</i>	1回	1テキスト
	<i>as fast as</i>	1回	1テキスト

「～するとすぐに」の意味を持つ接続詞の発達

	<i>so soon as</i>	1 回	1 テキスト
	<i>soon as</i>	2 回	2 テキスト
19 世紀前半 1801 — 1850	<i>as soon as</i>	167 回	13 テキスト
	<i>as soon as ever</i>	6 回	4 テキスト
	<i>as fast as</i>	4 回	4 テキスト
	<i>so soon as</i>	8 回	4 テキスト
	<i>soon as</i>	2 回	1 テキスト

表 1 の各接続詞の半世紀毎の出現回数から *as soon as* と *so soon as* の 2 種類のみが競合関係にあったことが窺える。16 世紀後半に両者の競合関係は *as soon as* 109 回対 *so soon as* 31 回で始まり、17 世紀前半には 62 回対 3 回と一旦弱まり、17 世紀後半には 105 回対 27 回と勢いを盛り返した。だが 18 世紀前半には *so soon as* は一度も使用されず、競合関係は消失し、18 世紀後半に再び出現するがわずか 1 回に過ぎず、19 世紀前半にやや盛り返したものの 8 回のみであった。従って、両者が実質的競合関係にあったのは 17 世紀後半までであったと結論づけることができよう。

*As soon as* の強意形 *as soon as ever* は 16 世紀前半から 19 世紀後半まで途切れることなく出現する。とはいえ、その出現回数は極めて少ない。因みに、半世紀毎に 1 回、4 回、1 回、4 回、4 回、1 回、6 回の計 21 回に過ぎない。次に、*as fast as* は 16 世紀後半から、17 世紀前半は除いて、19 世紀前半までほぼ連続して現れる。因みに、半世紀毎に 1 回、1 回、9 回、1 回、4 回と計 16 回でしかない。しかしながら、現代英語では接続詞としては機能せず、むしろ副詞句としてのみ使用されている。例えば、*Tim ran as fast as he could.* のように強意の副詞句として、あるいは *That student can think as fast as her professor of physics does.* のように同等比較を表す副詞句として用いられている。*Anon as* は Middle English の名残りともいうべき接続詞で、例えば、King Arthur と円卓の騎士を題材とした *The Works of Sir Thomas Malory* (a1470) の長編散文では *anone as* の spelling で 61 回も使用されている。なお、この接続詞は 16 世紀前半の笑い話と William Tyndale 訳の新訳聖書にのみ使われており、これ以降の時代には一切現れない。最後に、*soon as* は 18 世紀後半の *The Castle of Otranto* (1764) と *The Monk* (1796) に各 1 回、19 世紀前半の *David Copperfield* (1850) に 2 回使われているだけである。従って、第一グループの接続詞としては、最も頻繁に使用されており、現代英語まで生き残った *as soon as* が代表格の接続詞である。

文法面では、第一グループの接続詞で始まる節が従属節として機能しており、従属節の述部動詞が述べる行為に続いて起こる、別の述部動詞が表す行為が述べられている節が主節として

機能していることになる。

*As soon as* the King was departed, that noble Prince his son drew toward London, which at the time of his father's death, kept his household at Ludlow in Wales.

[*The History of King Richard the Third* (1513)]

And therefore *so soon* as he [= Solomon] had made it, he concluded to make all the spirits come and appear before him. [*The Mirrour of Mirth* (1583), p. 370]

I will for this night lie in my cloathes, so that *as soone as euer* you call, I will straight be ready. [*The Gentle Craft*, Part I (?1597), p. 125]

*As soon as ever* the *Phantastick Monarch* cou'd find in his heart to divorce himself from the dear and charming Embraces of his Beautiful Bedfellow, he came flying to *Sir Phillip*, [*king of Bantam* (1697), p. 290]

*As fast as* he [= the Saint] translated, he got every parcel o it by Heart, and with that help, was of Opinion, that he might begin to declare the Gospel.

[*The Life of St. Francis Xavier* (1688), p. 245]

the latter will be destroyed *as fast as* the former is spent, [*David Simple* (1744), p. 137]

*Anon as* this gentleman saw him [= a scholar of Oxford], he bad him go with him into the City and he should be sped [= taken care of] anon.

[*A Hundred Merry Tales* (1526), p. 100]

But *anone as* Sir Launcelot harde of the shyld of Cornwayle, he wyste well hit was sir Trystram that had fought with hys enemyes,

[*The Works of Sir Thomas Malory* (a1470), p. 509]

And *anon as* he went on his way, his servants met him, and told him saying: thy child liveth.

[*Tyndale's New Testament* (1534): John, Ch. 4]

*Soon as* the company was dispersed their several ways, Frederic, quitting his chamber, enquired if Hippolita was alone; [*The Castle of Otranto* (1764), p. 106]

*Soon as* she got to England she turned her face tow'rds it. [*David Copperfield* (1850), p. 676]

## 第2節 第2グループに属する接続詞

表2 第2グループの接続詞の半世紀毎の出現回数と出現したテキストの数

16世紀前半 1501 — 1550	<i>no sooner ~ but</i>	1回	1テキスト
	<i>scarce ~ then</i>	1回	1テキスト
16世紀後半 1551 — 1600	<i>no sooner ~ but</i>	55回	17テキスト
	<i>no sooner ~ than</i>	3回	3テキスト
	<i>no sooner ~ but that</i>	19回	2テキスト
	<i>scarce ~ before</i>	2回	2テキスト
	<i>scarce ~ but</i>	6回	4テキスト
	<i>scarce ~ but that</i>	1回	1テキスト
	<i>scarce ~ ere</i>	2回	2テキスト
	<i>scarce ~ when</i>	3回	3テキスト
	<i>scarcely ~ before</i>	2回	2テキスト
	<i>scarcely ~ but that</i>	3回	1テキスト
	<i>scarcely ~ when</i>	4回	1テキスト
17世紀前半 1601 — 1650	<i>no sooner ~ but</i>	33回	10テキスト
	<i>no sooner ~ than</i>	2回	2テキスト
	<i>scarce ~ that</i>	2回	1テキスト
17世紀後半 1651 — 1700	<i>no sooner ~ but</i>	62回	11テキスト
	<i>no sooner ~ than</i>	19回	2テキスト
	<i>no sooner ~ when</i>	4回	3テキスト
	<i>scarce ~ before</i>	1回	1テキスト
	<i>scarce ~ but</i>	1回	1テキスト
	<i>scarce ~ when</i>	6回	3テキスト
	<i>scarcely ~ before</i>	1回	1テキスト
	<i>scarcely ~ when</i>	12回	1テキスト
	<i>hardly ~ e're</i>	4回	1テキスト
	<i>hardly ~ when</i>	2回	1テキスト
18世紀前半 1701 — 1750	<i>no sooner ~ but</i>	35回	8テキスト
	<i>no sooner ~ than</i>	105回	7テキスト
	<i>scarce ~ before</i>	9回	3テキスト
	<i>scarce ~ but</i>	8回	4テキスト
	<i>scarce ~ when</i>	12回	6テキスト
	<i>hardly ~ before</i>	2回	2テキスト
	<i>hardly ~ when</i>	2回	2テキスト
18世紀後半	<i>no sooner ~ but</i>	3回	2テキスト

1751 — 1800	<i>no sooner ~ than</i>	137 回	13 テキスト
	<i>scarce ~ before</i>	5 回	3 テキスト
	<i>scarce ~ ere</i>	3 回	2 テキスト
	<i>scarce ~ when</i>	26 回	8 テキスト
	<i>scarcely ~ before</i>	5 回	4 テキスト
	<i>scarcely ~ ere</i>	2 回	1 テキスト
	<i>scarcely ~ than</i>	1 回	1 テキスト
	<i>scarcely ~ when</i>	26 回	8 テキスト
	<i>hardly ~ when</i>	7 回	3 テキスト
19 世紀前半 1801 — 1850	<i>no sooner ~ than</i>	41 回	11 テキスト
	<i>scarce ~ before</i>	1 回	1 テキスト
	<i>scarce ~ when</i>	2 回	2 テキスト
	<i>scarcely ~ before</i>	6 回	2 テキスト
	<i>scarcely ~ ere</i>	1 回	1 テキスト
	<i>scarcely ~ than</i>	1 回	1 テキスト
	<i>scarcely ~ when</i>	15 回	8 テキスト
	<i>hardly ~ before</i>	3 回	3 テキスト
	<i>hardly ~ when</i>	6 回	6 テキスト
	<i>barely ~ when</i>	1 回	1 テキスト

*No sooner ~ but* は初期近代英語期に *Howleglas* (?1528) にのみ現れる。ところが、16 世紀後半からは使用回数も増し、増減を繰り返しながら 18 世紀後半まで連続して使用される。それでも 18 世紀後半には使用回数が急激に減少し、19 世紀前半には姿を消してしまう。次に、*no sooner ~ but* と競合関係にある *no sooner ~ than* は初期近代英語期には 16 世紀後半に初めて登場する。その後増大し始め、17 世紀後半に漸く *no sooner ~ but* との競合関係の萌芽 (62 回対 19 回) が見られる。さらに、18 世紀前半に終に *no sooner ~ but* に対し優勢 (35 回対 105 回) になり、19 世紀前半までその状況が継続する。*No sooner ~ than* の出現回数は 18 世紀後半にはさらに増えている (3 回対 137 回) のに、どういうわけか 19 世紀前半には大きく数を減らしている (0 回対 41 回)。それでもなお、19 世紀前半に *no sooner ~ but* が突然姿を消した結果、終に *no sooner ~ than* は *no sooner ~ but* に対して交替を確立する。

なお、*no sooner* は「否定の意味を持つ副詞」で、後に続く語句の方は、*no sooner* と共に用いる場合は、元々接続詞に分類されている。例えば *OED* において、*no sooner* に続く *but* は接続詞に分類されており、現代英語の用法では *but* の代わりに *than* が必要であり、*but* は現代英語では廃語であると解説している。(OED. s.v. *but* C. conj. †15. a. After *no sooner*, where modern

use requires *than*. (Also *but that*.) Obs.<sup>2)</sup>

*Scarce* ならびに *scarcely* は、「二つの行為が連続して起きる時に時の副詞節を導く接続詞」として機能する際、両者共に他の語句を伴って使用される。他の語句として *scarce* は 7 種類 (*before*、*but*、*but that*、*ere*、*that*、*then*、*when*) を持ち、一方 *scarcely* は 5 種類 (*before*、*but that*、*ere*、*than*、*when*) を持っている。*Scarce* あるいは *scarcely* で始まる接続詞は *no sooner* で始まる接続詞に比べて、相対的に共に出現回数は少ない。従って、*scarce* ~ *before* [(or) *but*、*but that*、*ere*、*that*、*then*、*when*] と *scarcely* ~ *before* [(or) *but that*、*ere*、*than*、*when*] 同士の競合関係も、この両者と *no sooner* で始まる接続詞との競合関係も概ねないと云ってもよいであろう。因みに、*scarce* で始まる接続詞と *scarcely* で始まる接続詞の出現回数を 16 世紀後半から比べてみると、次のようになる。順に、14 回対 9 回、2 回対 0 回、8 回対 13 回、29 回対 0 回、34 回対 34 回、8 回対 23 回である。顕著な傾向としては、*scarce* で始まる接続詞の方は 16 世紀前半から 19 世紀後半まで連続して現れるが、*scarcely* で始まる接続詞の方は 17 世紀前半ならびに 18 世紀前半には完全に姿を消し、断続的にしか出現しない点である。別の顕著な傾向としては、*scarce* ならびに *scarcely* に続く語句が、17 世紀後半から 19 世紀前半までを検討すると、一貫して出現する語句が固定してくる点である。因みに、*scarce* に続く語句を、半世紀毎に見てみると以下の通りである：*before/but/when*；*before/but/when*；*before/ere/when*；*before/when*、つまり常に現れるのは、*before* と *when* である。一方、*scarcely* に続く語句の場合、次の通りである：*before/when*；18 世紀前半は *scarcely* の例はない；*before/ere/than/when*；*before/ere/than/when*、つまり常に現れるのは、*before* と *when* である。*Before* か *when* との組合せの数の方が、残りの語句との組合せの数よりも多いことから、現代英語の時期へ近づくに連れて後続の語句の種類が整理されてきたと推測しても無難であろう。因みに、半世紀毎に見てみると、*scarce* の場合 [7 回対 1 回；21 回対 8 回；31 回対 3 回；3 回対 0 回]、一方 *scarcely* の場合 [13 回対 0 回；18 世紀前半は *scarcely* の例はない；31 回対 3 回；21 回対 2 回] となっている。以上の数値の左側のものは *before* と *when* の出現回数を合算したものである。

*Hardly* で始まる接続詞は 17 世紀後半に初めて出現する。その後 18 世紀前半から 19 世紀前半まで連続して使用されている。その出現回数は、*scarce* ないしは *scarcely* で始まる接続詞のものに比べてもかなり少ない。因みに、半世紀毎に見てみると、6 回、4 回、7 回、9 回となっている。また、*hardly* に続く語句を見てみると、*scarce* や *scarcely* で見たように、*before* か *when* との組合せの合計数の方が、残りの語句との組合せの合計数よりも多い傾向が窺われる。因みに、半世紀毎に見てみると、[2 回対 4 回；4 回対 0 回；7 回対 0 回；9 回対 0 回] となっ

2) See *OED*. (s.v.) *but*. C. conj. †15.

ている。即ち、17世紀後半のみ別の語句との組合せの方が多いが、18世紀に移行してからは *before* か *when* との組合せしか見られない。この点も *scarce* や *scarcely* の場合同様に、現代英語の時期へ近づくに連れて後続の語句の種類が整理されてきたと推測できよう。

最後に、*barely* ~ *when* という接続詞は19世紀前半に初めて Austen の *Northanger Abbey* に1回のみ登場する。

以上から、*No sooner* ~ *than* は第2グループの中では出現回数が一番多く、使用頻度も一番高くもあり、代表の座を占めていると云えよう。

現代英語には残存していない *no sooner* ~ *when* は *scarce* ~ *when*、*scarcely* ~ *when* や *hardly* ~ *when* との混淆（混成）から生じたものであると Poutsma は解説している。(Poutsma: 668: The use of *when* instead of *than* after *no sooner* is another instance of contamination)<sup>3)</sup> 同様にこの解説を基にして、*scarce* ~ *but* は *no sooner* ~ *but* との混淆から生じたと推測できよう。

The sun was *no sooner* stepped from the bed of Aurora, *but* Aliana was awakened by Ganymede, who, restless all night, had tossed in her passions, saying it was then time to go to the field to unfold their sheep. [*Rosalynde* (1590)]

But the young man *no sooner* saw it, *but that* beating his brest, he cried,  
[*The New Arcadia* (1590), p. 9]

*No sooner* was the unhandsome beast dislodged from his darksome habitation, *when* every person well-horsed endeavoured to show his own skill and his courser's vigour,  
[*The Princess Cloria* (1653/1661), p. 232]

Returning home this evening, a little before my usual hour, I *scarce* had seated myself in my easy-chair, stirred the fire, and stroked my cat, *but* I heard somebody come rumbling upstairs.  
[*Isaac Bickerstaff* (1709)]

*Scarce* a Day or Night pass'd over, *but* some dismal Thing or other happened at the End of that *Harrow Alley*, [*the Plague Year* (1722), p. 177]

She had *scarce* got twenty paces distant from me, *ere* something within me called out for a more particular enquiry [*Sentimental Journey* (1768), p. 20]

and Jacob was yet *scarce* gone out from the presence of Isaac his father, *that* Esau his brother came in from his hunting. [*Genesis* (1611), Ch. 27]

As soon as Isaac had made an end of blessing Jacob, and Jacob was *scarce* gone out from the

3) See Poutsma (1929:668) *A Grammar of Late Modern English*.

presence of Isaac his father: *then* came Esau his brother from his hunting: [*Pentateuch: The First Book of Moses Called Genesis*, Ch. 27 (1530), p. 46]

Their Tea was *scarce* over, *when* News came of the Arrival of old Mr. *Andrews* and his Wife. [*Joseph Andrews* (1742), p. 263]

that some Popes haue *scarcely* liued 2 daies, nay some one day: *before* they haue bene made away [=get rid of or kill] by the Cardinals, [*The Spanish Masqverado* (1589), p. 261]

She had *scarcely* finished *ere* the bell announced bedtime: no delay could be admitted; [*Jane Eyre* (1847), p. 62]

Such she believed were his words; but *scarcely* had she received their sound, *than* her attention was caught by other sounds immediately behind her, which rendered every thing else trivial. [*Persuasion* (1818), p. 188]

I had *scarcely* reached the landing-place, *when* a violent knocking at the door shook my whole frame. [*Memoirs of Emma Courtney* (1796), p. 186]

One of the best of these I entered; but I had *hardly* placed my foot within the door, *before* the children shrieked, and one of the women fainted. [*Frankenstein* (1818), p. 70]

I'l take thy word, said t'other, and went directly to the place, where he had *hardly* sate down and call'd for some drink e'r [=e're] the Souldier came in; [*The Unhappy Mistake* (1698), p. 432]

An hour had *hardly* flown away *when* the musicians played the signal for parting, so well known in Scotland. [*Waverley* (1814), p. 318]

he accordingly set off by himself, and Catherine had *barely* watched him down the street, *when* her notice was claimed by the approach of the same two open carriages, containing the same three people that had surprised her so much a few mornings back. [*Northanger Abbey* (1818), p. 84]

次に、*no sooner*、*scarce*、*scarcely*、*hardly*、*barely* のいずれかで始まる接続詞は全て、その構造上「否定の意味を持つ副詞＋接続詞」から成り立っている。また、これらの否定の意味を持つ副詞が文の先頭あるいは節の先頭に来ると、概ね前半の節は一般に倒置構造を取る。では、*no sooner*、*scarce*、*scarcely*、*hardly*、*barely* の副詞が文や節の先頭に来て、倒置構造を取る回数はどうなっているのかを表3に提示している。

表 3 第 2 グループの接続詞が倒置構造を取る回数

16 世紀前半 1501 - 1550			
<i>no sooner ~ but</i>	1 回中 0 回	<i>scarce ~ then</i>	1 回中 0 回
16 世紀後半 1551 - 1600			
<i>no sooner ~ but</i>	55 回中 7 回	<i>no sooner ~ but that</i>	19 回中 1 回
<i>no sooner ~ than</i>	3 回中 1 回	<i>scarce ~ before</i>	2 回中 1 回
<i>scarce ~ but</i>	6 回中 1 回	<i>scarce ~ but that</i>	1 回中 0 回
<i>scarce ~ ere</i>	2 回中 0 回	<i>scarce ~ when</i>	3 回中 1 回
<i>scarcely ~ before</i>	2 回中 0 回	<i>scarcely ~ but that</i>	2 回中 1 回
<i>scarcely ~ when</i>	4 回中 2 回		
17 世紀前半 1601 - 1650			
<i>no sooner ~ but</i>	33 回中 12 回	<i>no sooner ~ than</i>	2 回中 0 回
<i>scarce ~ that</i>	2 回中 1 回		
17 世紀後半 1651 - 1700			
<i>no sooner ~ but</i>	62 回中 7 回	<i>no sooner ~ than</i>	19 回中 3 回
<i>no sooner ~ when</i>	4 回中 1 回	<i>scarce ~ before</i>	1 回中 0 回
<i>scarce ~ but</i>	1 回中 0 回	<i>scarce ~ when</i>	6 回中 3 回
<i>scarcely ~ before</i>	1 回中 0 回	<i>scarcely ~ when</i>	12 回中 3 回
<i>hardly ~ e're</i>	4 回中 0 回	<i>hardly ~ when</i>	2 回中 0 回
18 世紀前半 1701 - 1750			
<i>no sooner ~ but</i>	35 回中 9 回	<i>no sooner ~ than</i>	105 回中 10 回
<i>scarce ~ before</i>	9 回中 2 回	<i>scarce ~ but</i>	8 回中 1 回
<i>scarce ~ when</i>	12 回中 0 回	<i>hardly ~ before</i>	2 回中 0 回
<i>hardly ~ when</i>	2 回中 0 回		
18 世紀後半 1751 - 1800			
<i>no sooner ~ but</i>	3 回中 1 回	<i>no sooner ~ than</i>	137 回中 50 回
<i>scarce ~ before</i>	5 回中 2 回	<i>scarce ~ ere</i>	3 回中 1 回
<i>scarce ~ when</i>	26 回中 6 回	<i>scarcely ~ before</i>	9 回中 0 回
<i>scarcely ~ ere</i>	2 回中 2 回	<i>scarcely ~ than</i>	1 回中 1 回
<i>scarcely ~ when</i>	26 回中 7 回	<i>hardly ~ when</i>	7 回中 0 回
19 世紀前半 1801 - 1850			
<i>no sooner ~ than</i>	41 回中 22 回	<i>scarce ~ before</i>	1 回中 0 回
<i>scarce ~ when</i>	2 回中 1 回	<i>scarcely ~ before</i>	6 回中 3 回
<i>scarcely ~ ere</i>	1 回中 0 回	<i>scarcely ~ than</i>	1 回中 1 回
<i>scarcely ~ when</i>	15 回中 4 回	<i>hardly ~ before</i>	3 回中 1 回
<i>hardly ~ when</i>	6 回中 3 回	<i>barely ~ when</i>	1 回中 0 回

上記の調査結果からは、倒置構造を取ることが多いとも少ないとも明確な結論には至らな

かった。それでもなお、例えば、*no sooner ~ than* の場合（18世紀前半までは比較的少ないが、18世紀後半から19世紀後半にはかなり増えたとは云えよう。）下記の例からして、倒置構造を取るものには過去完了で始まるものが多いという特徴が見られる。

#### 倒置文の例

No sooner was the lady brought before the Emperor but he conceived her to be some goddess, and offered to worship her, [*no sooner ~ but: The Blazing World* (1666), p. 260.]

No sooner had Amata heard the name of Mignon, but she cried out, ‘Surely my happiness is now complete, and all my sorrows, by this joyful moment, are more than fully recompensed; [*no sooner ~ but: The Governess* (1749)]

No sooner was the treacherous Brother gone, than the old Lady taking Philadelphia by the hand, led her into the Parlour; [*no sooner ~ than: The Unfortunate Happy Lady* (1698), p. 368]

No sooner was the unhandsome beast dislodged from his darksome habitation, when every person well-horsed endeavoured to show his own skill and his courser’s vigour, [*no sooner ~ when: The Princess Cloria* (1653/1661). P. 232]

but some indispensable business intervening to detain her [=Mrs. Cole], I was obliged to set out alone; and scarce had I got a third of my way, before the axletree broke down, and I was well off, to get out safe and unhurt, into a public-house of a tolerably handsome appearance, on the road. [*scarce ~ before: Memoirs of a Woman of Pleasure* (1749), p. 156]

scarce did they use any Caution, but run into any Business, which they could get Employment in, tho’ it was the most hazardous; [*scarce ~ but: The Plague Year* (1722), p. 90]

but scarce had she felt a mother’s pangs, ere she heard the fatal rumour of her lord’s death, and the succession of Ricardo. [*scarce ~ ere: The Castle of Otranto* (1764), p. 114]

We climbed the highest of these [hills], but scarce had we reached the top, when a mist descended upon every thing, and the rain began to fall: [*scarce ~ when: Six Weeks’ Tour* (1817), p. 29]

and scarcely had she felt a five minutes’ longing of friendship, before the object of it appeared, and inviting her to a secret conference, led the way to a seat. [*scarcely ~ before: Northanger Abbey* (1818), p. 143]

Scarcely could I recollect where, or, indeed, what I was, ere they poured upon me such a torrent of questions and enquiries, that I was almost stunned with their vociferation. [*scarcely ~ ere: Evelina* (1778), p. 152]

Scarcely had He succeeded in his design, than He shuddered at himself and the means by which it was effected. [*scarcely ~ than: The Monk* (1796), p. 384]

Scarcely had he ended his Prayer, when he was assur'd, it was answer'd: [*scarcely ~ when: Life of St. Francis Xavier* (1688) p. 95]

for hardly had she been seated ten minutes before a lady of about her own age, who was sitting by her, and had been looking at her attentively for several minutes, addressed her with great complaisance in these words: [*hardly ~ before: Northanger Abbey* (1818), p.31]

Darkness then came over me, and troubled me; but hardly had I felt this, when, by opening my eyes, as I now suppose, the light poured in upon me again. [*hardly ~ when: Frankenstein* (1818), p. 68]

### 第 3 節 第 3 グループに属する接続詞

表 4 第 3 グループの接続詞の半世紀毎の出現回数と出現したテキストの数

18 世紀前半	<i>the moment</i>	73 回	7 テキスト
1701 — 1750	<i>the instant</i>	1 回	1 テキスト
18 世紀後半 1751 — 1800	<i>the moment</i>	98 回	11 テキスト
	<i>the instant</i>	9 回	4 テキスト
	<i>the minute</i>	1 回	1 テキスト
	<i>the moment that</i>	2 回	1 テキスト
	<i>the instant that</i>	1 回	1 テキスト
19 世紀前半 1801 — 1850	<i>the moment</i>	31 回	10 テキスト
	<i>the instant</i>	8 回	4 テキスト
	<i>the minute</i>	2 回	2 テキスト

第 3 グループの接続詞は、「定冠詞 *the* + *moment* (or *instant* or *minute*)」の形式で機能する。なお、3 種類の名詞 *moment*、*instant*、*minute* はいずれもが「極めて短い時間」を表している。*Merriam-Webster's Advanced LEARNER'S English Dictionary* では、それぞれの名詞の定義は以下のようになっている。

*moment*: a very short period of time; *instant*: a very short period of time;

*minute*: a brief period of time

さらに、上記の辞書では *the instant* と *the minute* は「*as soon as*」の意味で、*the instant that*、*the minute that* の形式で使用されることもあると例を挙げて示している。

I knew it was him *the instant (that)* [=as soon as] I heard his voice.

I knew *the minute (that)* I saw it that I had to have this dress.<sup>4)</sup>

4) See *Merriam-Websters' Advanced LEARNER'S English Dictionary* (2008) (s.v.) *moment*; *instant*; and *minute*.

Swan (2005: 242 *Practical English Usage*) は、*the moment/instant/minute* に関して、現代英語に関するコメントではあるが、*the moment (that)*、*the instant (that)*、*the minute (that)* [*the second (that)* を含めて] のように *that* を伴って 接続詞 *as soon as* の意味でイギリス英語とアメリカ英語の両方で使用されることもあると、2 個の用例を上げて解説している。[*The moment (that), the instant (that), the second (that) and the minute (that) can be used in the same way [=as conjunctions, to mean ‘as soon as’.] (in both British and American English). Telephone me the moment (that) you get the results. I loved you the instant (that) I saw you.*] <sup>5)</sup>

She flew with all speed to her chamber; and *the moment* she entered, Chloe cried out, ‘Can you forgive me, Caelia?’ [*The Governess* (1749)]

*The moment* he saw I could enjoy myself without him, and that others knew my value better than himself, the selfish wretch began to accuse me of coquetry and extravagance, and to abuse Harry Meltham whose shoes he was not worthy to clean; [*Agnes Grey* (1847), p. 161]  
and we having fee’d them *the instant* they entered the room, according to the instructions of our host, they bowed and smiled, and offered to introduce us to whatever disease we pleased. [*Journey from This World* (1743), p. 15]

yet, *the instant* I listened again, there was the doleful cry moaning on!  
[*Wuthering Heights* (1847), p. 21]

I understood that *the minute* the affair of the fire was over Mr. Falkland had retired to his own room. [*Caleb Williams* (1794), p. 134]

My mother was the daughter of a king; she died *the minute* I was born, as my good nurse Lychorida has often told me weeping. [*Tales from Shakespeare* (1807), p. 203]

But *the moment that* the Clock struck ‘One,’ irresistable slumber seized them, nor left them till The departure of the Ghost. [*The Monk* (1796), p. 163]

*The instant that*, from my window, I saw her returning, I flew down stairs, and met her in the garden. [*Evelina* (1778), p. 302]

---

5) See Swan (2005: 242) *Practical English Usage* Third Edition.

## 第 4 節 第 4 グループに属する接続詞

表 5 接続詞用法の *Immediately and Directly*

18 世紀前半 1701 — 1750	<i>immediately</i>	1 回	1 テキスト
19 世紀前半 1801 — 1850	<i>directly</i>	40 回	8 テキスト

現代英語の語法書である Swan の *Practical English Usage* Third Edition に拠れば、イギリス英語では、*immediately* と *directly* は「*as soon as*」と同じ意味で接続詞として用いることができると述べている。(Swan: 242: *The moment (that), the instant (that), the second (that), and the minute (that) can be used in the same way (in both British and American English).*<sup>6)</sup> ところで、後期近代英語ではどうなのかを以下で述べる。

*Immediately* と *directly* は共に「すぐに (without any delay, at once, right away)」の意味で一般には副詞として使われている。ところが後期近代英語期に接続詞として「～するとすぐに (*as soon as*)」の意味で使用されるようになった。接続詞用法の *immediately* に関して、例えば、Gilman は *Webster's English Dictionary of Usage* (1989) の中で「*immediately* は 100 年以上に亘って使われてきたが、アメリカ英語では確立するには至らなかったし、誤用だとされており、アメリカの作家でこの語を使用するのはまれである。イギリス英語では接続詞用法の *immediately* は普通であり、標準語となっている。」と述べている。(Gilman: s.v. *immediately*, 524-525: *Immediately has been used as a conjunction equivalent to as soon as for well over a hundred years, but it has never really succeeded in establishing itself in American English. Many American commentators have cited it as an error, and our evidence shows that its use by American writers has been rare. In British English, however, it is common and standard*)<sup>7)</sup> 一方、接続詞用法の *directly* に関して、Evans が *A Dictionary of Contemporary American Usage* (1957) の中で「接続詞用法の *directly* は Dickens、Thackeray、M. Arnold によってイギリス文学で確立し、過去 100 年間使用されてきた。」と述べている。(Evans: s.v. *direct; directly*. 136: *For the last hundred years the word directly has also been used as a conjunction, that is, to introduce a clause, as in directly he arrived, I left. Here the word means "as soon as."* The only possible objection to this construction is that it is relatively new. Most conjunctions have developed from adverbs in just this way, and this particular one has been established

6) See Swan (2005: 242) *Practical English Usage* Third Edition.

7) See Gilman (1989: 524-525) (s.v.) *immediately Webster's Dictionary of Usage*.

in English literature by Dickens, Thackeray, and Matthew Arnold.)<sup>8)</sup>

先ず、*immediately* は小野博士が『英文学研究 (1978)』で紹介された *Robinson Crusoe* (1719) からの例が唯一のものである。<sup>9)</sup> また、18 世紀前半から 19 世紀前半までの数多くの散文テキストを資料として扱った私の博士論文執筆の過程で残念ながら接続詞用法の例は *Crusoe* 以外からは見つからなかった。一方、接続詞用法の *directly* については、Dickens, Thackeray, M. Arnold の作品をそれぞれ 4、3、1 の計 8 テキストを調査し、40 回分見つかった。内訳は以下の通りである。

*Oliver Twist* (1837-39、3回)、*Nicholas Nickleby* (1838-39、9回)、*Old Curiosity Shop* (1840-41、9回)、*Barnaby Rudge* (1841、10回)、*Catherine* (1839-1840、2回)、*History of S. T. and H. D.* (1841、2回)、*Vanity Fair* (1848、4回)、*Function of Criticism* (1864、1回)

さらに、接続詞用法の *directly* は、「くだけた、日常会話的な、話し言葉」として使用されるので、語りの箇所よりはむしろ対話の箇所に現れるのが普通である。Wilson は、接続詞用法の *directly* は主としてイギリス英語であり、アメリカでは、標準語からははずれた使い方とされ、イギリスの語法解説者の中にはこの用法はくだけた、日常会話的な、話し言葉として使う場合のみ適切だと考える者もいるとコメントしている。[and the third (is) predominantly British (in the United States it is frequently labeled Nonstandard, and in Britain some commentators consider it suitable only for Informal use).]<sup>10)</sup> Swan と Sinclair が挙げている例も informal なものである：*Directly we get our visas we'll be on our way.* 142; *Directly I walked in the door, I smelt smoke.* 242; *Directly* I saw the word Pankot it occurred to me that you must have known Colonel Layton and his family. 191. 今回の調査では、語りの箇所に 21 回、対話の箇所に 19 回という結果であった。その内訳は次の通りである。語りの箇所には、*Nicholas Nickleby* (4回)、*Old Curiosity Shop* (4回)、*Barnaby Rudge* (7回)、*Catherine* (1回)、*Vanity Fair* (1848、4回)、*Function of Criticism* (1回)。一方、対話の箇所には、*Oliver Twist* (3回)、*Nicholas Nickleby* (5回)、*Old Curiosity Shop* (5回)、*Barnaby Rudge* (3回)、*Catherine* (1回)、*History of S. T. and H. D.* (2回)。

I made him understand that I would shoot and kill the Bird; accordingly I fir'd and bad him [=Friday] look, and *immediately* he saw the Parrot fall, he stood like one frighted again, notwithstanding all I had said to him; [*Robinson Crusoe* (1719) p. 211]  
and *directly* he got into Wild's gang, I knew that he had not a year to run. [*Catherine* (1839-40)]

8) See Evans (1957: 136) (s.v.) direct; directly *A Dictionary of Contemporary American Usage*.

9) 小野捷 (1978: 241-260) 参照「18 世紀における英語副詞節の変化について」『英文学研究』第 55 巻第 2 号

10) Wilson (1993: 142 *The Columbia Guide to Standard American English*, s.v. direct (adv., adj.), directly (adv.))

*directly* she got up I saw her look towards his infernal red lamp with the pantomime-light.

[*Oliver Twist* (1837-39) p. 94]

*Directly* people expect to make a large interest, their judgment seems to desert them;

[*The History of S. T. and the H. D.* (1841)]

for *directly* the man addressed me in the road, I recognised his speech again. [*Barnaby Rudge* (1841), p. 50]

She knew it was all up, *directly* I found it. [*Vanity Fair* (1848) p. 555]

‘That’s him,’ whispered Mr Kenwigs, greatly excited. ‘Morleena, my dear, run down and let your uncle in, and kiss him *directly* you get the door open. Hem! Let’s’ be talking.’ [*Nicholas Nickleby* (1838-39) Ch. 14, p. 165]

I’ll go away *directly* you tell me to [go away], Quilp. [*The Old Curiosity Shop* (1840-41) p. 474]

*Directly* this play of mind wants to have more scope, and to forget the pressure of practical considerations a little, it is checked, it is made to feel the chain. [*The Function of Criticism* (1865)]

## 第 2 章 主節と従属節の動詞の時制

第 1 グループの接続詞に関しては出現回数の多い *as soon as* について検討する。第 2 グループの場合、出現回数が多い *no sooner ~ than* について検討する。第 3 グループでは、出現回数の多い *the moment* を検討する。第 4 グループの場合、出現回数が多い *directly* が検討対象である。

*as soon as*、*so soon as*、*the moment*、*directly* のいずれかで始まる節が従属節である。一方、*no sooner ~ but* 及び *no sooner ~ than* では、*no sooner* の後に述部動詞が来る節が主節で、*but* ないし *than* の後に主語と述部動詞が来る節が従属節だと考えられる。それは *no sooner* 自体は否定の意味を持つ副詞句であり、*but* 及び *than* はそれぞれ接続詞だからである。

いずれにせよ、*as soon as*、*the moment*、*directly* に続く従属節の述部動詞が表す動作が先に起こり、それに続いて主節の述部動詞が表す動作が生じる。一方、*no sooner ~ than* では、*no sooner* の後に来る述部動詞が表す動作が先に起こり、それに続いて *than* に続く従属節の述部動詞が表す動作が生じる。第 1 動作及び第 2 動作を表す各述部動詞の時制並びにその形態は、出現回数が多いものについては下記の 4 パターンに分類される。

Past Perfect + Simple Past -

IV - A (略記)

「～するとすぐに」の意味を持つ接続詞の発達

Present Perfect + Simple Present - III - A (略記)

Simple Past + Simple Past - II - A (略記)

Simple Present + Simple Present - I - A (略記)

表6 *As Soon As* で始まる従属節と主節の述部動詞の時制、形態と出現回数

<i>As Soon As</i> 16世紀前半	IV - A	III - A	II - A	I - A	その他
<i>King Richard Third</i>	1回		5回		
<i>Hundred Merry Tales</i>	2回		3回		1回
<i>Howleglas</i>	1回				
<i>Tyndale's Pentateuch</i>	10回		11回	1回	7回
<i>Boke Named Gouvernour</i>	1回		1回	3回	3回
<i>Tyndale's New Testament</i>	28回	1回	24回	5回	4回
<i>Tales &amp; Quick Answers</i>	1回		1回		1回
計 115回	44回	1回	45回	9回	16回
その他：Simple Present + will (or shall) + verb、can (or may) + verb + Simple Present、等					
<i>As Soon As</i> 16世紀後半	IV - A	III - A	II - A	I - A	その他
<i>Utopia</i>				1回	
<i>Life of Thomas More</i>	2回		1回		
<i>Book of Courtier</i>	1回	1回	6回	9回	2回
<i>Master Skelton</i>	1回		1回		
<i>Schoole of Abuse</i>				1回	
<i>Euphues &amp; England</i>				3回	
<i>Pandosto</i>	3回		7回		
<i>Rosalynde</i>	7回	1回	9回		4回
<i>Pembroke's Arcadia</i>	8回		23回		2回
<i>Blacke Booke's Messenger</i>	1回		1回		2回
<i>Pierce Penillesse</i>			1回		
<i>Groatsworth of Wit</i>					1回
<i>Chinon on England</i>	1回		3回		
<i>Thomas of Reading</i>	3回				
計 106回	27回	2回	52回	14回	11回
その他：Past Perfect (or Present Perfect or Simple Present) + 命令文、Past Perfect + should + verb、等					
<i>As Soon As</i> 17世紀前半	IV - A	III - A	II - A	I - A	その他
<i>Advancement of Learning</i>	1回	1回	1回	1回	2回
<i>King James Bible</i>	16回		16回	2回	13回
<i>Bacon's Essays</i>					2回

<i>Voyage to Virginia</i>	6回		2回		
計 63回	23回	1回	19回	3回	17回
その他：Simple Past + Simple Present、Simple Past + would + verb、Present Perfect + will + verb、等					
<b>As Soon As</b> 17世紀後半	Ⅳ - A	Ⅲ - A	Ⅱ - A	Ⅰ - A	その他
<i>Leviathan</i>	2回		2回		
<i>Compleat Angler</i>					1回
<i>Prince Cloria</i>					
<i>Mary Carleton</i>			2回	1回	1回
<i>Blazing World</i>	3回		2回	2回	
<i>Elizabeth Lillyman</i>	2回				
<i>Pilgrim's Progress I</i>			1回		
<i>Pilgrim's Progress II</i>	1回		1回		
<i>Life of F. Xavier</i>	4回		9回		2回
A. Behn's short stories	14回		33回	1回	6回
<i>Incognita</i>	5回		3回		1回
計 99回	31回		53回	4回	11回
その他：should + verb + should (or would) + verb、should + verb + Simple Past、等					
<b>As Soon As</b> 18世紀前半	Ⅳ - A	Ⅲ - A	Ⅱ - A	Ⅰ - A	その他
<i>Isaac Bickerstaff</i>	2回		3回		3回
<i>Robinson Crusoe</i>			31回		5回
<i>Journal of Plague Year</i>			12回		6回
<i>Roxana</i>	7回		18回		5回
<i>Gulliver's Travels</i>		1回	8回	1回	2回
<i>Pamela</i>	2回	1回	18回	2回	15回
<i>Joseph Andrews</i>	16回		16回		
<i>Journey from This World</i>	1回		5回	2回	
<i>David Simple</i>	17回		54回		5回
<i>Fanny Hill</i>	16回		17回		2回
<i>Governess</i>	8回		18回		1回
計 320回	69回	2回	200回	5回	44回
その他：Simple Past & Past Perfect + Simple Past、Simple Past + would + have + past participle、could + have + past participle + Past Perfect、should + verb + would + verb、would + verb + would + verb、等					
<b>As Soon As</b> 18世紀後半	Ⅳ - A	Ⅲ - A	Ⅱ - A	Ⅰ - A	その他
<i>Rasselas</i>				1回	
<i>Castle of Otranto</i>	2回		5回		2回
<i>Vicar of Wakefield</i>	1回		7回		
<i>Sentimental Journey</i>	3回		4回		

「～するとすぐに」の意味を持つ接続詞の発達

<i>Humphry Clinker</i>	1回		2回		4回
<i>Man of Feeling</i>					
<i>Old English Baron</i>	3回		14回		5回
<i>Evelina</i>	7回		24回		3回
<i>Tour to the Hebrides</i>			3回	1回	3回
<i>Vathek</i>	1回		2回		2回
<i>Sicilian Romance</i>	1回		1回		
<i>Simple Story</i>	11回		20回	2回	1回
<i>Caleb Williams</i>	7回		12回		1回
<i>Emma Courtney</i>			1回		
<i>The Monk</i>	12回		23回	3回	4回
<i>Maria</i>	1回		1回		
<i>Vaccination against Smallpox</i>			1回	2回	
計 204回	50回		120回	9回	25回
その他：would + verb + might + verb、would + verb + Simple Past、Simple Past (or Simple Present) + should + verb、Simple Past + would + have + past participle、shall + verb + will + verb、等					
<b><i>As Soon As</i></b> 19世紀前半	IV - A	III - A	II - A	I - A	その他
<i>J. A. Letters</i>	1回	1回	6回	6回	6回
<i>Tales from Shakespeare</i>	1回		4回		1回
<i>Waverley</i>			9回	1回	4回
<i>Six Weeks Tour</i>	1回		2回		
<i>Frankenstein</i>	1回		6回		1回
<i>Northanger Abbey</i>	2回		13回		1回
<i>Persuasion</i>	1回		9回		1回
<i>Opium-Eater</i>			3回		
<i>Voyage of the Beagle</i>	1回		18回	7回	1回
<i>Agnes Grey</i>	2回		4回	3回	1回
<i>Jane Eyre</i>	1回		9回		3回
<i>Wuthering Heights</i>	2回		14回	1回	6回
<i>David Copperfield</i>	1回			11回	1回
計 167回	14回	1回	97回	29回	26回
その他：Simple Past + could + have + past participle、Past Continuous + Simple Past、Simple Past + Past Perfect、等					

*As soon as* の場合、16世紀前半から19世紀前半まででは、17世紀前半を除いて、II - A が一番多い。因みに、順に115回中45回(39.1%)、106回中52回(49%)、63回中19回(30.2%、2番)、99回中53回(53.5%)、320回中200回(62.5%)、204回中120回(58.8%)、167回中

97回 (58.1%) である。次に多いのが、IV - A であるが、順に 115 回中 44 回 (38.3%)、106 回中 27 回 (25.5%)、63 回中 23 回 (36.5%、1 番)、99 回中 31 回 (31.3%)、320 回中 69 回 (21.6%)、204 回中 50 回 (24.5%)、167 回中 14 回 (8.4%、4 番) となっている。III - A は特に少なく、17 世紀後半及び 18 世紀後半は皆無であった。

And as soon as he had made an end of communing with them, he put a covering upon his face. [past perfect + simple past: *Pentateuch* (1530), p. 136]

As soon as they have compleated the term of eighty Years, they are look'd on as dead in Law; [present perfect + simple present: *Gulliver's Travels* (1726) p. 180]

Then Martha, as soon as she heard that Jesus was coming, went and met him: but Mary sat still in the house. [*The New Testament: St John*, Ch. 11 (1611), p. 120]

But as soon as the bird is seen flying, its whole appearance changes; [simple present + simple present: *The Voyage of the Beagle* (1839)]

表 7 *No Sooner ~ Than* で始まる従属節と主節の述部動詞の時制、形態と出現回数

<i>No Sooner ~ Than</i> 18 世紀前半	IV - A	III - A	II - A	I - A	その他
<i>History of John Bull</i>	2 回		2 回		
<i>Joseph Andrews</i>	30 回		34 回	2 回	
<i>Journey from This World</i>	2 回		11 回		
<i>Life of Savage</i>	4 回		4 回		
<i>David Simple</i>	4 回		2 回		
<i>Governess</i>	5 回		5 回		
計 105 回	47 回		58 回	2 回	
その他：なし					
<i>No Sooner ~ Than</i> 18 世紀後半	IV - A	III - A	II - A	I - A	その他
<i>Rasselas</i>			1 回		
<i>Castle of Otranto</i>	3 回		1 回		
<i>Vicar of Wakefield</i>			2 回		
<i>Humphry Clinker</i>	3 回		18 回	1 回	
<i>Man of Feeling</i>	2 回				
<i>Evelina</i>	7 回		12 回		
<i>Tour to the Hebrides</i>				1 回	
<i>Vathek</i>	7 回		7 回		

「～するとすぐに」の意味を持つ接続詞の発達

<i>Simple Story</i>	6回	1回	6回		1回
<i>Caleb Williams</i>	8回		21回		
<i>The Monk</i>	9回		17回		
<i>History and Romance</i>				2回	
<i>Maria</i>			1回		
計 137回	45回	1回	86回	4回	1回
その他：Past Continuous + Simple Past、					
<b><i>No Sooner ~ Than</i></b> 19世紀前半	IV - A	III - A	II - A	I - A	その他
<i>Tales from Shakespeare</i>	4回		3回		
<i>Waverley</i>	3回		5回		1回
<i>Frankenstein</i>			1回		
<i>Northanger Abbey</i>	2回				
<i>Persuasion</i>	1回				1回
<i>Opium-Eater</i>			1回		
<i>Voyage of the Beagle</i>	2回		3回	3回	
<i>Agnes Grey</i>			1回		
<i>Jane Eyre</i>	3回	1回	2回		
<i>Wuthering Heights</i>			1回		
<i>David Copperfield</i>	1回		2回		
計 41回	16回	1回	19回	3回	2回
その他：Simple Past + Past Perfect、Past Perfect & Past Perfect（従属節）+ Past Perfect（主節）					

*No sooner ~ than* の場合、18世紀前半から19世紀前半までの三期全般を通じて II - A が一番多い。因みに、順に105回中56回（53.3%）、137回中86回（62.8%）、41回中19回（46.3%）である。次に多いのが IV - A で、因みに順に105回中47回（44.8%）、137回中45回（32.9%）、41回中16回（39%）である。III - A は相変わらず少なく、18世紀前半のみ皆無であった。*as soon as* に比べて III - A は極端に減少しており、18世紀前半では皆無であった。

*No sooner had he changed the bill, than he vanished from the sight of all his acquaintances, and lay for some time out of reach of all the enquiries that friendship or curiosity could make after him; [past perfect + simple past: The Life of Savage (1744), p. 550]*

*'no sooner have you got settled in a pleasant resting-place, than a voice calls out to you to rise and move on, for the hour of repose is expired.'* [present perfect + simple present: *Jane Eyre* (1847), p. 213]

At a small distance they saw a thick wood, which *no sooner* entered *than* they perceived

that they were approaching the habitations of men. [simple past + simple past: *The History of Rasselas* (1759), p. 83]

but *no sooner* do you find yourself in good quarters, *than* you forget that you are to move.  
[simple present + simple present: *Tour to the Hebrides* (1786), p. 352]

表8 *The Moment* で始まる従属節と主節の述部動詞の時制、形態と出現回数

<i>The Moment</i> 18世紀前半	IV - A	III - A	II - A	I - A	その他
<i>Isaac Bickerstaff</i>			1回		
<i>Robinson Crusoe</i>			1回		
<i>Pamela</i>			2回	1回	6回
<i>Joseph Andrews</i>			9回	1回	1回
<i>Journey from This World</i>			7回		
<i>David Simple</i>	9回		26回	3回	
<i>Governess</i>	1回		5回		
計 73回	10回		51回	5回	7回
その他：Simple Present + will (or shall) + verb、Simple Present + 命令文、等					
<i>The Moment</i> 18世紀後半	IV - A	III - A	II - A	I - A	その他
<i>Castle of Otranto</i>	1回		1回		
<i>Vicar of Wakefield</i>			1回	1回	1回
<i>Sentimental Journey</i>			7回	1回	
<i>Humphry Clinker</i>			9回		3回
<i>Old English Baron</i>			1回		
<i>Evelina</i>	6回		23回		3回
<i>Tour to the Hebrides</i>			2回		
<i>Vathek</i>	2回				1回
<i>Simple Story</i>	2回		6回	1回	2回
<i>Caleb Williams</i>			3回	1回	2回
<i>Maria</i>	1回		3回	1回	3回
計 98回	12回		56回	5回	15回
その他：Past Perfect + Past Continuous、Past Perfect + ought to + have + past participle、Simple Past + Past Perfect、should + verb + would + verb、Present Perfect + will + verb、等					
<i>The Moment</i> 19世紀前半	IV - A	III - A	II - A	I - A	その他
<i>J. A. Letters</i>			1回		
<i>Tales from Shakespeare</i>	1回		3回		
<i>Waverley</i>	1回				
<i>Northanger Abbey</i>	1回		1回		

「～するとすぐに」の意味を持つ接続詞の発達

<i>Persuasion</i>	1回				
<i>Voyage of the Beagle</i>			1回	1回	
<i>Agnes Grey</i>			1回		
<i>Jane Eyre</i>	1回		3回	2回	1回
<i>Wuthering Heights</i>			4回	1回	1回
<i>David Copperfield</i>	2回		3回		1回
計 31回	7回		17回	4回	3回
その他：Simple Past + would + verb、Simple Past + would + have + past participle、Simple Present + will + verb、					

*The moment* の場合、18世紀前半から19世紀前半までの三期全般を通じてⅡ - Aが一番多い。因みに、順に73回中51回(69.9%)、98回中56回(57.1%)、31回中17回(54.8%)である。次に多いのが、Ⅳ - Aであり、因みに順に73回中10回(13.7%)、98回中12回(12.2%、3番)、31回中7回(22.6%)である。Ⅲ - Aは三期全てで皆無であった。その他は18世紀後半のみ98回中15回(15.3%)と他の二期と比べると多い方である。

*The moment* it had taken its direction, Gulchenrouz, whose heart always trembled at any thing sudden or rare, drew Nouronihar by the robe and anxiously requested her to return to the harem. [past perfect + simple past: *Vathek* (1786), p. 69]

*the moment* they approached each other, she begged him with the utmost Earnestness to relieve a distressed Creature, [simple past + simple past: *Joseph Andrews* (1742) p. 210]

We were left at peace in our beds as long as the summer moon shone, but *the moment* a blast of winter returns, you must run for shelter! [simple present + must + verb (as simple present): *Wuthering Heights* (1847), p. 137]

表9 *Directly* で始まる従属節と主節の述部動詞の時制、形態と出現回数

<i>Directly</i> 19世紀前半	Ⅳ - A	Ⅲ - A	Ⅱ - A	Ⅰ - A	その他
<i>Oliver Twist</i>			1回	1回	1回
<i>Nicholas Nickleby</i>			5回		4回
<i>Catherine</i>			2回		
<i>Old Curiosity Shop</i>	1回		6回	1回	1回
<i>Barnaby Rudge</i>	2回		7回	1回	
<i>Titmarsh &amp; Hoggarty</i>			1回	1回	
<i>Vanity Fair</i>			4回		

<i>Function of Criticism</i>				1 回	
計 40 回	3 回		26 回	5 回	6 回
その他：Simple Present + will + verb、Simple Past + should (or would) + verb、等					

*Directly* の場合、II - A が一番多く、40 回中 26 回 (65%) である。ところが、IV - A は 40 回中 3 回 (7.5%、4 番) で一番少ない。また、III - A は皆無であった。

## まとめ

16 世紀前半から 19 世紀前半までの 3 世紀半にわたり、2 つの動作が連続して起こる際に使用されてきた「時の副詞節を導く接続詞」の発達と衰亡の歴史の実態を、イギリスの散文作品を資料として考察してきた。以上の事項を簡単にまとめると次のようになるであろう。

第 1 グループでは、出現回数の多い *as soon as* と *so soon as* が 16 世紀後半から競合関係に入るが、18 世紀後半には *so soon as* は衰退の一途を辿って行く。19 世紀前半には完全に消失し、*as soon as* が最も有力な地位を確立する。第 2 グループでは、出現回数の多い *no sooner ~ but* と *no sooner ~ than* が 17 世紀後半から競合関係に入るが、18 世紀後半には *no sooner ~ but* の衰退が明確になり、19 世紀前半には完全に姿を消してしまう。その結果、*no sooner ~ than* が最も優勢になる。第 3 グループでは、18 世紀前半に登場した *the moment* が同時期に出現した *the instant* ならびに 18 世紀後半に出現した *the minute* に対しても出現回数の点で大きく上回り、19 世紀後半まで一番優勢な地位を保持し続けた。第 4 グループの *directly* は 19 世紀前半に登場し、イギリスの作家の間で使用された。もう一つの *immediately* は *Robinson Crusoe* に一度だけ登場した。

さらに、第 2 グループの場合、*no sooner*、*scarce*、*scarcely*、*hardly*、*barely* のいずれかが文や節の先頭に来ると、倒置構造が生まれる。調査結果からは、倒置構造を取ることが多いとも少ないとも明確な結論には至らなかった。それでもなお、*no sooner ~ than* の場合、18 世紀前半までは比較的少ないが、18 世紀後半から 19 世紀後半にはかなり増えている。

以上の接続詞は、必ず従属節と主節の 2 種類の節と共に用いられる。この 2 種類の節で用いられる動詞の時制を調査した結果、一番多い組合せは「Simple Past + Simple Past」で、2 番目に多い組合せは「Past Perfect + Simple Past」であった。さらに倒置構造を取る例を検討した結果、動詞句は過去完了で始まるものが多かった。

## 参考文献

- 井上 義昌編 (1972) 『英米語用法辞典』 東京：開拓社 Rep. of 1960.
- 小西 友七 [編] (2006) 『現代英語語法辞典』 東京：三省堂
- 小野 捷 (1978) 「18世紀における英語副詞節の変化について」『日文学研究』 第55巻第2号  
東京：日本英文学会 241-260.
- 小野 捷 (1984) 『英語時間副詞節の文法』 東京：英宝社
- Curme, George O. (1978) “Clause of time and its conjunctions.” *Syntax*. Boston: D. C. Heath and Company, Rep. of 1931. 266-277.
- Curme, George O. (1986) *A Grammar of The English Language*. Volume I: Parts of Speech. Essex, Connecticut: Verbatim. Rep. of 1935.
- Evans, Bergen and Cornelia Evans. (1957) *A Dictionary of Contemporary American Usage*. New York: Random House.
- Gilman, E. Ward. (1989) *Webster's Dictionary of English Usage*. Springfield, Massachusetts: Merriam-Webster Inc., Publishers.
- Perrault, Stephen J. (2008) Merriam=Webster's Advanced LEARNER'S English Dictionary. Springfield: Merriam Webster, Incorporated.
- Poutsma, Hendrik. (1929) “Adverbial Clauses of Time.” *A Grammar of Late Modern English*. Part I The Sentence Second Half The Composite Sentence. Second Edition. Groningen: P. Noordhoff, 661-680.
- Quirk, Randolph et al. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. New York: Longman.
- Sinclair, John. (1990) *Collins COBUILD English Grammar*. London: William Collins Sons & Co Ltd.
- Sinclair, John. (1993) *Collins COBUILD English Usage*. London: HarperCollins Publishers. Rep. of 1992.
- Swan, Michael. (2005) *Practical English Usage*. Third Edition. Oxford: Oxford U. P.
- Wilson, Kenneth G. Wilson. (1993) *The Columbia Guide to Standard American English*. New York: Columbia U. P.
- The Oxford English Dictionary*. Second Edition. (2009) on CD-ROM. Version 4.0. New York: Oxford UP.

## Summary

## The Development of Conjunctive Word-Groups Which Express Two Events or Actions that Take Place one after the other

This paper examines the development and decline of conjunctive word-groups during the period from the first half of the 16th century until the first half of the 19th century. They are used when introducing the adverbial clause of time to narrate two events or two actions that happen one after the other within a very short time. For this purpose, prose works which consist of fiction and nonfiction are used as a corpus.

Conjunctive word-groups are classified into four main groups: 1st group (*as soon as*, *so soon as*, *as soon as ever*, *anon as*, *as fast as*, *soon as*); 2nd group (*no sooner ~ but*, *no sooner ~ than*, *scarce ~ before*, *scarce ~ when*, *scarcely ~ before*, *scarcely ~ when*, *hardly ~ before*, *hardly ~ when*, *barely ~ when*, etc.); 3rd group (*the moment*, *the instant* and *the minute*); 4th group (*directly* and *immediately*). In the 1st group *as soon as* starts to compete with *so soon as* in the second half of the 16th century. However, the number of occurrences of *so soon as* begins to be drastically reduced in the second half of the 17th century. In addition, *so soon as* disappears completely in the first half of the 18th century, which leads to the achievement of a dominant position of *as soon as*. In the second group *no sooner ~ than* starts to compete with *no sooner ~ but* in the second half of the 17th century. Thereafter the number of occurrences of *no sooner ~ but* begins to make a sharp drop in the second half of the 18th century and the first half of the 19th century sees its sudden disappearance. Consequently, the dominant position of *no sooner ~ than* is established. In the 3rd group, *the moment* holds a dominant position against both *the instant* and *the minute* throughout the period from the first half of the 18th century until the first half of the 19th century. In the 4th group *directly* begins to be used by British authors alone such as Dickens, Thackeray and M. Arnold in the first half of the 19th century, while *immediately* occurs only once in *Robison Crusoe*.

When each of *no sooner*, *scarce*, *scarcely* and *hardly* are placed at the beginning of a clause or sentence, they result in inverted word order between the subject and the verb phrase. Roughly speaking, the number of occurrences of inverted word order is relatively small, though the number

of instances in which these conjunctive word-groups are employed is very large. Nevertheless, although the number of inverted word order of *no sooner ~ than* remains very small until the first half of the 18th century, it begins to increase dramatically in the second half of the 18th century and continues in the first half of the 19th century.

These conjunctive word-groups need two kinds of clauses, namely, the subordinate clause and the main clause. Investigating verb tenses in these two clause shows that the most common combination is ‘Simple Past + Simple Past,’ whereas the second most common combination is ‘Past Perfect + Simple Past.’